

# 平成7年度通常総会議案について

平成7年度通常総会は去る4月21日に開催され、以下の総会議案がすべて原案どおり承認されましたのでお知らせします。

## (第1号議案)

### 平成6年度事業報告

袴田 茂樹 (青山学院大学 教授)

・発表件数	130件
一般発表	120件
チュートリアル/解説・展望セッション	4件
ペーパーフェア	5件 (内部会報告2件)
パネル討論	1件
・参加者数	385名

また、11日にはNHK放送センター、カナダプラスを見学した。

## I. 事業の概要

### 1. 研究発表会

(1) 5月25日、26日の両日、南山大学において、第75回研究発表会を開催した。

- ・特別テーマ「生産システムとOR」
- ・特別講演 (一般公開)

1) 物造り人の時代を迎えて—— 一生産技術者のORへの想い

北野 幹雄 (トヨタ自動車㈱ 取締役)

2) 日本の生産システムの形成 和田 一夫 (東京大学 助教授)

・発表件数	141件
一般発表	119件
ペーパーフェア	5件 (内部会報告 3件)
特別セッション	17件
・参加者数	360名

また、27日には中部HSST開発機大江実験センター、愛知県警総合科学センターを見学した。

(2) 10月9日、10日の両日、青山学院大学において、第76回研究発表会を開催した。

- ・特別テーマ「リストラクチャリング/リエンジニアリングとOR」
- ・特別講演 (一般公開)

1) 経営雑感

村井 勉 (OR学会会長, JR西日本・アサヒビール㈱ 名誉会長)

2) 旧ソ連・東欧諸国の再生をめぐる

### 2. シンポジウム

(1) 5月24日、中部品質管理協会において、第31回シンポジウム「信頼性—情報通信システムの性能評価」を開催した。参加者は41名であった。

(2) 10月11日、青山学院大学において、第32回シンポジウム「生産スケジューリング・シンポジウム'94」を(社)日本経営工学会、(社)日本機械学会、システム制御情報学会と共催し、当学会を幹事学会として開催した。参加者は246名であった。

### 3. 特設研究部会 (数理計画法研究会)

(主査：茨木俊秀 (京都大学) 幹事：森戸 晋 (早稲田大学)、田口 東 (中央大学)、茨木 智 (京都大学)、石井博昭 (大阪大学)、加藤直樹 (神戸商科大学)、福島雅夫 (奈良先端科学技術大学)、矢部 博 (東京理科大学)、山本芳嗣 (筑波大学) メンバー：26名)

月例研究会 (9回・東京)、RAMPシンポジウム、RAMPセミナー等の開催を通じて数理計画法の理論と応用に関する研究普及活動を行なった。また、会の運営にあたっては、若手研究者の育成のため、特別な配慮を行なった。

### 4. 研究部会・研究グループ

研究部会・研究グループ終了/中間報告

- ◎印 終了を示す
- \*印 研究グループを示す
- ☆印 常設部会を示す

部会名	主査/幹事	メンバー	開催	内容
☆待ち行列	高橋 幸雄 (東京工業大学) 小林 和朝 (日本電気)	25名	8回	毎月1回第3土曜日に開催し、毎回30名前後の参加者を得た。内容は主に待ち行列理論とその応用に関するもので、新しいアプローチの研究発表が多数あり、活発な議論が行なわれた。
☆OR/MSとシステム・マネジメント	山田 善靖 (東京理科大学) 住田 友文 (電気通信大学)	26名	6回	本年の主要目的は「経営システムのマネジメントに情報技術をどのように利用するかを検討、討議し、理解を深めること」で、リエンジニアリングの本質、生産現場でのマンマシンシステムのあり方、企業の電子ネットワークの社会心理などの報告、討議が行なわれた。
◎システムモデリング手法とその活用	時 永 祥 三 (九州大学) 中村 博和 (佐賀大学)	23名	7回	システムモデリング手法とその活用の課題について、社会科学および自然科学の各分野から研究発表を行なっていただいた。主な内容は経済工学におけるモデリング、生産・物流システム、意思決定モデルなどであった。

部会名	主査/幹事	メンバー	開催	内容
◎CIM環境下における生産計画とスケジューリング	黒田 充 (青山学院大学) 西岡 靖之 (東京大学)	25名	9回	生産計画あるいはスケジューリングに関する先端の研究のための情報交換を支援し、また、企業の実務家のもつ現実の問題を確認し、その解決方法を検討するための定期的な会合を基本とした活動を行なった。
◎巨大プロジェクトに関するOR	柳井 浩 (慶應義塾大学) 栗田 治 (慶應義塾大学)	16名	9回	本部会は日本GIF研究財団からの委託研究という形を取り、巨大プロジェクトの実際に携わる方々との交流と共同研究の機会を得た。研究成果としては1994年3月の中間報告に続いて、現在、最終報告書のOR学会報文集化の準備を行なっている。
◎データ解析とOR	田中 謙輔 (新潟大学) 下村 忠行 (新潟中央短大)	22名	3回	教育・研究分野と企業現場が連携し、現実と直面する問題の中で特にデータ解析に焦点をあてて研究を行なってきた。ORの普及とあわせ、研究者間の交流や情報交換の場を提供するとともに、理論と実践の両面から追求し、議論した。
◎交通政策とOR	野末 尚次 (鉄道総合技術研究所) 小野 耕司 (鉄道総合技術研究所)	15名	7回	中国の交通計画の専門家から総合交通政策の実施例を聴取するとともに、未調査の高速道路の交通政策課題を調査した。これにより行政、運輸企業、コンサルタント等の調査が完了したので、部会活動の集約を行なった。
動的計画法	小田中 敏 男 (北海道情報大学) 蔵野 正 美 (千葉大学)	10名	9回	昨年はこれまでの研究部会活動のまとめとも言える第6回ベルマンコンティニウム、国際研究会「知的システムと革新的計算法」を8月1日、2日開催し、約30篇の内外からの発表があり、成功裡に終了した。今後はこの成果を基として、さらなる発展を期している。
システムと最適化	一森 哲 男 (大阪工業大学) 森田 浩 (神戸大学)	17名	5回	最適化の手法を対象とするのではなく、どちらかと言えば最適化の手法が応用されているものを主としている。発表者・会場は毎回異なり、マンネリ化しないよう心がけている。自由な雰囲気でも議論しており、テーマはオーソドックスなものが多い。
ORソフトウェア	八巻 直 一 (システム計画研究所) 宮田 雅智 (青山学院短大)	21名	7回	ORに有用なソフトウェアやアルゴリズムを紹介、あるいは研究することを目的として活動している。研究の内訳を大きく3つに区分し、それぞれで成果を期するように配慮した(1)モデリング環境(2)ソフトウェアの知的所有権(3)電子メールサービス。
組合せ最適化	松井 知 己 (東京大学) 猿渡 康 文 (防衛大学校)	20名	7回	近年の組合せ最適化理論における研究は、精密な計算機実験等を行なうためグループ単位での研究体制が必要。したがって研究者間の交流が必要不可欠である。本部会は研究者間の密な連絡を図り、最新の結果を互いに交換しあう場を設けることを目的とし、特に異なる学校・研究所の若手研究者および修士・博士課程の学生間の直接的交流を目指している。
合意形成・政策	荻野 正 浩 (経営情報コンサルタント) 片山 隆 仁 (防衛庁)	21名	11回	一党支配崩壊、猫の目の連立政権、社会党の大変身、旧世界秩序破壊の中の民族や宗教戦争、政治経済・社会すべての局面で人類の英知を結集した新パラダイムづくりに人類の成否がかかる。解明に有志参加を募る。
マーケティング・サイエンス	木島 正 明 (筑波大学) 西尾 千 づ (筑波大学)	17名	9回	近年、POSデータ、パネルデータなどの大量のマーケティングデータの収集が可能になり、マーケティング分野の科学的な解析とりわけORの手法が見直されてきている。本研究部会では、マーケティング・サイエンスの全般にわたる理論的な研究とともに、実務におけるいろいろなマーケティングの問題を議論する。
リエンジニアリング	梅 沢 豊 (東京大学) 山下 達 哉 (富士短期大学)	27名	7回	リエンジニアリングに取り組んでいる先端企業のケース、基本的な考え方をもとに、日本型リエンジニアリングの成功条件を検討した。同様なテーマを掲げたOR企業サロンと関連させて進めている。
ファイナンスのOR	古川 浩 一 (東京工業大学) 批々木 規雄 (慶應義塾大学)	26名	10回	オプション評価を含むデリバティブ取引の問題、ポートフォリオ選択問題、債券分析などについて、活発な議論が行なわれた。研究者・実務家が一同に集い、情報交換の場としての役割は、各個人の研究成果をより高めている。
評価のOR	刀根 薫 (埼玉大学) 上田 徹 (NTT通信網研究所)	14名	7回	今年度は新しいモデルの提案、応用事例の報告などを中心に議論した。最終回とその直前の会合は学生の発表会とし、通常よりも発表件数をふやして対処した。毎回20名程度の参加があり、遠来の参加者もあった。
ORリテラシー	高井 英 造 (静岡大学) 垣花 京子 (家政学院短大)	26名	9回	ORとOR的な思考方法の基本として身につけておくことには、どのようなものがあるのか、その習得手段としては、どのような方法が適切なかを研究することを目的とし、ORリテラシーの概念、リテラシー教育への期待とその方法、ORへの入口における諸問題について議論してきた。

部 会 名	主 査 / 幹 事	メンバ ー	開 催	内 容
意思決定とOR	菊 田 健 作 (富 山 大 学) 中 島 恭 一 (富 山 県 立 大 学)	20 名	5 回	意思決定に限定せず、OR に関する研究の広い分野での発表を中心に、北陸地方において研究集会を開催。20 名前後の参加を得た。その内容は、意思決定、ファジィ理論、ファイナンス理論、数理計画などである。
◎ * システム・シミュレーション	森 戸 晋 (早 稲 田 大 学) 中 野 一 夫 (構 造 計 画 研 究 所)	25 名	1 回	離散系シミュレーションの応用と理論に関する情報交換を行なうとともに、早稲田大学と共同で1994年8月1-2日にアジアで初めての離散系シミュレーション国際会議“New Directions in Simulation for Manufacturing and Communications”を開催(参加者18ヵ国より250名)し、そのProceedings(547頁)をOR学会報文集T-94-1として刊行した。
* 日本の経営	上 田 亀 之 助 (上田インベション研究所) 石 井 允 夫 (長 野 計 器)	15 名	11 回	「経営」とは、あらゆる有機的統一体がある環境の中で起こってくる問題を解決したり、その目的に対して常により良い状態を保ち所期の効果を上げるようにする人間活動で、日本では、「日本の経営」です。
* 自動車市場の計量分析	国 沢 清 典 (東 京 工 業 大 学) 上 田 恭 嗣 (東 京 国 際 大 学)	9 名	8 回	中期の乗用車セグメント別需要予測、短期の自動車需要予測、乗用車販売を動かす要因分析、中古車販売における価格設定等のモデルを実例について研究した。
* 情報ネットワークとその活用	根 本 忠 明 (和 光 大 学) 小 野 賢 治 (電 力 中 央 研 究 所)	12 名	9 回	「グループウェアと電子メール」、「情報インフラ整備」の2つをテーマに設定し、毎回10数名程の参加者を得て活発な討論を行ってきた。

## 5. 普及活動

### (1) 定例講演会

開催年月	テ ー マ	講 師	参加人数	開催地区
6年3月	クオ・ワァディス	梅 沢 豊	10名	中国・四国
〃 4月	企業と法律	北 川 俊 光	14名	九 州
〃 5月	ソフトウェア/アルゴリズムの権利保護について	今 野 浩	43名	本 部
〃 12月	Methodology and a Modular Tool for Multiple Criteria Analysis of LP Models	M a r e k M a k o w s k i	11名	関 西

### (2) OR セミナー

#### ・第1回

「多変量データの解析 - コンピュータとの対話形式で進められるその基礎と応用」を平成6年6月24日、東京ガス機本社で開催した。参加者は66名であり、強い関心と活発な質疑を呼んだ。

題 目	講 師
データ解析の基礎	芳 賀 敏 郎 (東 京 理 科 大 学)
主成分分析	
回帰分析の基礎	
回帰分析の応用	
ロジスティック回帰分析	
多段層別分析 (AID)	

#### ・第2回

「モダンヒューリスティックス - Neural Network, Genetic Algorithm, Simulated Annealing, Tabu Search の基礎から最新動向まで」を平成6年9月5日、東京ガス機本社で開催した。参加者は52名であり、強い関心と活発な質疑を呼んだ。

題 目	講 師
Local Search から Simulated Annealing, Tabu Search へ	久 保 幹 雄 (東 京 商 船 大 学)
遺伝的アルゴリズムの基礎と展望	田 中 健 次 (茨 城 大 学)
ニューラルネットワークの基礎	甘 利 俊 一 (東 京 大 学)

#### ・第3回

「確率過程とファイナンス」を平成6年11月22日、東京ガス機本社で開催した。参加者は43名であり、強い関心と活発な質疑を呼んだ。

題 目	講 師
マルチングール理論	楠 岡 成 雄 (東 京 大 学)
確率微分方程式の解法	白 川 浩 (東 京 工 業 大 学)
派生証券の価値付け理論	木 島 正 明 (筑 波 大 学 経 営 シ ス テ ム 科 学)
ファイナンスにおける格子モデル	長 山 い づ み (三 菱 銀 行)

(3) OR 企業サロン

今年度も「業務革新(リエンジニアリング)とトップのリーダーシップ」を統一テーマとし、梅沢豊(東京大学経済学部)をコーディネータとして開催した。今日的な経営の重要課題に関する話題を提供し、あわせて参加者相互の交流を深めることによって、大きな成果を収めた。

(参加者延 775 人)

開催月日	テーマとゲストスピーカー	参加者
6.5.18	リエンジニアリングにいかに取り組みか ○東京大学 経済学部 教授 梅沢 豊	93 名
6.8.24	TQC とリエンジニアリング ○横河ヒューレット・パッカード㈱ 代表取締役会長 笹岡 健三 ○東京大学 経済学部 教授 梅沢 豊	95 名
6.10.9	特別講演 経営雑感 ○西日本旅客鉄道㈱・アサヒビール㈱ 取締役名譽会長 村井 勉	253 名
	パネル討論 リストラクチャリング/リエンジニアリングと OR 基調講演 ○東京大学 経済学部 教授 梅沢 豊 討論 ○日経 BP(社) 日経ビジネス 編集長 大谷 清 ○日本ブーズ・アレン・アンド・ハミルトン㈱ 代表取締役 織畑 基一 ○沖電気工業㈱ 本社企業品質センター長 柳沢 滋 ○東京大学 経済学部 教授 梅沢 豊	
6.11.4	NTT 関西支社におけるリエンジニアリングと IT システム ○日本電信電話㈱ 関西支社 副社長 通信システム本部長 井上 英也	114 名
	超リーン革命 ○㈱日本経済新聞社 東京本社 編集局産業部 次長 小嶋 健史	
7.1.30	大和ハウス工業の創業・成長・多角化 ○大和ハウス工業㈱ 代表取締役相談役 石橋信夫	108 名
	企業革新 — 日本的リエンジニアリングの展開 — ○東京大学 経済学部 教授 梅沢 豊	
7.3.27	パネル討論 なぜ、いま業務革新(リエンジニアリング)なのか 基調講演 ○東京大学 経済学部 教授 梅沢 豊 討論 ○中小企業金融公庫情報システム部長 岩崎 保 ○東京ガス㈱ マーケティング企画部 部長 上田 舜三 ○日本鋼管㈱ 情報化推進部 管理情報室長 増野 亨	112 名

6. 刊行物

- 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」Vol.39 No.3 から Vol.40 No.2 まで 12 号を発行した。各号は特集を主とし、他にトップの視点、論文・事例研究、論文・研究レポート、実践講座、連載講座、学生論文賞受賞論文要約、書評、研究部会報告等を掲載した。
- 論文誌 (Journal of the Operations Research Society of Japan) Vol.36 No.4 から Vol.37 No.3 まで (314 ページ) を発行した。本年度の投稿論文は 127 編 (再投稿 60 編を含む) で、掲載論文は 23 編であった。
- 研究発表会アブストラクト集およびシンポジウム予稿集他 (略)

7. 日本学術会議ならびに他学協会との連携・協力

- 日本学術会議関連

日本学術会議経営工学研究連絡委員会(経営工学研連)および経営学研連の構成学会として引き続き委員を派遣し、それらの活動に協力。7 月 8 日には経営工学研連ならびに関連 4 学会の共催による第 10 回シンポジウムを日本学術会議講堂において開催し、172 名の参加をみた。以下(略)

8. 受託研究活動

学会の公益活動の一環として、本年度は(財)グローバル・インフラストラクチャー研究財団からの受託研究を「巨大プロジェクトに関する OR」研究部会を窓口を実施した。

9. 国際協力

- IFORS (International Federation of Operational Research Societies)を通じて、各国の OR 学会との交流、協力を図った。特に、ポルトガル・リスボン市で開催された第 13 回 IFORS 大会の視察団報告書を発行した。
- APORS (Association of Asian-Pacific Operational Research Societies)の会長選出国として第 3 回 APORS 国際会議を 7 月に福岡市で開催し、アジア・太平洋地域の OR の発展と加盟学会の情報交換に協力した。
- IAOR (International Abstracts in Operations Research)の編集、発行に協力し、日本の文献抄録を送付するとともに、IAOR の Vol.45 No.1~No.6 の国内頒布に協力した。
- APJOR (Asia-Pacific Journal of Operational Research)の編集、発行、頒布に積極的に協力した。
- EJOR (European Journal of Operational Research) の編集、頒布に協力した。

10. 他学協会との交流

他学協会の下記講演会等に協賛、後援した。

- ・第 2 回ファジィ論理、神経ネットワークおよびソフトコンピューティングに関する国際会議(日本ファジィ学会他)
- ・離散系シミュレーション国際シンポジウム (OR 学会システムシミュレーション研究グループ・早稲田大学他) 以下(略)

## 11. 支部活動

各支部ごとに次のとおり活動した。

### 支 部 活 動 報 告

	北 海 道	東 北	中 部	関 西	中国四国	九 州
運営会議	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 1回	支部総会 1回 運営委員会 4回	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 役員会 1回 幹事会 3回	支部総会 1回
研究会	研究会 1回	研究会 3回	研究会 5回	研究会 19回		研究会 3回
講演会	講演会 2回	講演会 1回	講演会 1回	記念講演会 1回 研究講演会 4回 定例講演会 1回	講演会 6回 シンポジウム 2回	講演会 4回
出版			支部ニュース 8回 アブストラクト集 1回 総会議案 1回	支部 News letter 4回		支部ニュース 3回
その他			3学会中部支部研究交流会 1回	OR企業サロン共催 1回 見学会 1回		OR企業サロン共催 1回

## 12. 表彰

### (1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞

第23回文献賞の選考を行ない、次のとおり決定した。

- ・ Relationship between Queue-Length and Waiting Time Distributions in a Priority Queue with Batch Arrivals  
Journal of the Operations Research Society of Japan vol.37, NO.1  
高橋敬隆 (NTT 通信網研究所)

### (2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞

第20回普及賞の選考を行ない、以下のとおり決定した。

イ、児玉正憲 (九州大学) ロ、長谷川利治 (京都大学)

### (3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞

第19回実施賞の選考を行ない、次のとおり決定した。

東京ガス㈱ 代表取締役社長 安西邦夫

### (4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞

第15回事例研究奨励賞の選考および第10回事例研究奨励賞ソフトウェア部門の選考を行ない、以下のとおり決定した。

#### 第15回事例研究奨励賞

- ・ 選択組立における組合せ最適化 —自動車エンジンの事例—  
オペレーションズ・リサーチ vol.39, NO.10

山田泰弘 (長岡技術科学大学), 古林 隆 (法政大学)

- ・ ネットワークモデルによる都市ごみ収集輸送システムの最適化  
オペレーションズ・リサーチ vol.39, NO.12

高橋 洋 (川崎市), 大山達雄 (埼玉大学)

#### 第10回事例研究奨励賞ソフトウェア部門

- ・ 多変量解析プログラム まるば

小林龍一 (桃山学院大学)

### (5) 日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞

第12回学生論文賞の選考を行ない、以下のとおり決定し、授賞を行

なった。

- ・ A Study on the Capacitated Traveling Salesmen Location Problem

大竹徳成 (東京理科大学・修士論文)

- ・ Transient analysis of fluid approximation model for multi-entry queueing system in ATM statistical multiplexing

田中武志 (東京工業大学・修士論文)

- ・ ファジィ線形計画とファジィ環境下における確率的推移システム

藤田敏治 (九州大学・修士論文)

- ・ 地域間道路網解析による道路計画

藤原祥隆 (筑波大学・修士論文)

- ・ 市営バス路線決定問題に対する数理計画モデルの適用

三村庄一 (埼玉大学・修士論文)

## II 処務の概要

### 1. 役員に関する事項

理事 非常勤 監事 非常勤  
 定数：12人から16人 現在：16人 定数：2人 現在：2人  
 任期：2年 任期：2年

(以下略)

### 2. 職員に関する事項 (略)

### 3. 会議に関する事項

#### (1) 通常総会

開催年月日	議 事 事 項	結 果
6.4.22	1. 平成5年度事業報告の件 2. 平成5年度収支計算報告および監査報告の件 3. 平成6年度事業計画の件 4. 平成6年度予算の件 5. 平成6年度・7年度役員選任の件 6. 平成6年度・7年度評議員選任の件 学会賞の発表と表彰・新フェローの紹介	承認 " " " " " "

#### (2) 理事会 (略)

#### (3) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	結 果
7.4.14	1. 平成6年度事業報告の件 2. 平成6年度収支計算報告および監査報告の件 3. 平成7年度事業計画の件 4. 平成7年度収支予算の件 5. 平成7年度・8年度役員候補者選任の件 6. 名誉会員推薦の件 7. その他	承認 " " " " " "

#### (4) 支部長会議 (略)

#### (5) 委員会・幹事会

##### ・常設委員会

OR誌編集委員会 15回 JORSJ編集委員会 2回  
 研究普及委員会 6回 国際委員会 2回  
 普及小委員会 1回 表彰委員会 4回  
 研究小委員会 2回 IAOR委員会 2回  
 ・その他の委員会・幹事会  
 フェロー会議 1回 庶務幹事会 7回  
 APORS国際委員会 8回 財政問題検討委員会 1回  
 研究部会主査会議 1回 副会長会議 1回  
 OA化委員会 3回 丸の内OR企画委員会 4回  
 会員対策委員会 2回

### 4. 許可・認可・承認・証明に関する事項

該当なし

### 5. 契約に関する事項

(財)グローバル・インフラストラクチャー研究財団より、研究委託を受け、同財団と研究委託契約を締結した。

### 6. 寄付金に関する事項

①伊理前会長退官記念会より金1,000,000円也の寄付金を受け入れた。  
 ②7月に開催された APORS'94 国際会議に対し、万国博覧会協会・旭硝子財団・日本アイ・ビー・エム・日本科学技術連盟・日立製作所・アサヒビール・日本電信電話・富士通・東京ガス・西日本旅客鉄道・日本電気・花王・中部電力・電力中央研究所・構造計画研究所他23社より、合計23,100,000円也の補助金および寄付金を受け入れた。

### 7. 主務官庁の指示に関する事項

該当なし

### 8. 会員状況

#### (1) 入退会内訳

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員		合計	
				A種	B種		
平成6年2月末日	12	2,626	267	153(182)	47(47)	3,105	
平成6年度	入 会	123	125	6(6)	9(9)	263	
		学→正	46	△46			
		正→学					
	退 会	134	11	12(12)	6(6)	163	
		除 名	47	20			67
	復 活	5		1(1)		6	
純 増 減	0	△7	48	△5(△5)	3(3)	39	
平成7年2月末日	12	2,619	315	148(177)	50(50)	3,144	

( )は口数

#### (2) 地域別内訳

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員	
				A種	B種
本 部	10	1,560	221	102(128)	27(27)
北 海 道		73	3	5(5)	1(1)
東 北		95	9	4(5)	1(1)
中 部	1	235	25	12(12)	2(2)
関 西	1	371	43	15(15)	8(8)
中国・四国		150	4	4(6)	5(5)
九 州		135	10	6(6)	6(6)
合 計	12	2,619	315	148(177)	50(50)

( )は口数

## 平成6年度収支計算書

## 収支計算書総括表

平成6年3月1日から平成7年2月28日まで

(単位:円)

1 収入の部					
科 目	合 計	一 般 会 計	特 別 会 計		
			数理計画法研究会	I F O R S	A P O R S
基本財産運用収入	85,000	85,000	0	0	0
入会金収入	222,600	222,600	0	0	0
会費収入	55,071,050	55,071,050	0	0	0
事業収入	24,590,225	20,235,975	54,250	0	4,300,000
参加費収入	13,499,000	0	2,266,000	0	11,233,000
寄付金収入	19,800,000	1,000,000	0	0	18,800,000
その他収入	7,000,606	6,884,985	17,242	83,263	15,116
当期収入合計	120,268,481	83,499,610	2,337,492	83,263	34,348,116
前期繰越収支差額	22,917,346	18,658,878	3,798,952	459,516	0
収入合計	143,185,827	102,158,488	6,136,441	542,779	34,348,116
2 支出の部					
科 目	合 計	一 般 会 計	特 別 会 計		
			数理計画法研究会	I F O R S	A P O R S
管 理 費	38,064,804	28,376,101	5,441	206	9,683,056
事 業 費	82,632,409	54,847,317	3,318,729	82,915	24,383,448
当期支出合計	120,697,213	83,223,418	3,324,170	83,121	34,066,504
当期収支差額	△ 428,732	276,192	△ 986,678	142	281,612
次期繰越収支差額	22,488,614	18,935,070	2,812,274	459,658	281,612
支出合計	143,185,827	102,158,488	6,136,444	542,779	34,348,116

(以下略)

## (第3号議案)

## 平成7年度事業計画

本年度は、戦後50年をむかえた節目の年であり、また21世紀が視野に大きく入ってくる年でもある。世界の社会・経済情勢は大きく変化を続け新しいシステムを模索し続けており、その過程でさまざまな混乱が生じている。国内においても、長引く不況に加えて急速な円高の影響で経済情勢は混沌としている。このように、本学会のおかれている環境は依然として厳しいものがある。こうした中で、オペレーションズ・リサーチを通じて学問・文化の発展に貢献し、オペレーションズ・リサーチにかかわる人々の地位向上を目指す学会の基本的な活動は、時代を見据えながら弛まず着実に進められていかなければならない。

学会の運営にあたっては、変化する時代の環境に的確にしかも迅速に対応をするとともに、オペレーションズ・リサーチを支える実践活動と理論的研究活動をバランスよく推進していく。また、創立40周年を2年後にひかえた本年度は、中長期的な視点からもオペレーションズ・リサーチの基盤強化のための施策を検討していく。

平成7年度における事業計画の概要は以下のとおりである。

## 1. 研究発表会

研究発表会を春秋2回開催する。

(1) 春季研究発表会

期 日：3月27日、28日(見学会は29日)

場 所：広島修道大学

特別テーマ：ORルネッサンス

(2) 秋季研究発表会

期 日：10月16日、17日

場 所：埼玉県県民活動総合センター(埼玉県伊奈町)

特別テーマ：ORの実施

## 2. シンポジウム

シンポジウムを2回開催する。

(1) 第33回シンポジウム

期 日：3月29日

場 所：中国電力(広島市)

テーマ：ファジィ数理計画法とその応用

(2) 第34回シンポジウム

期 日：10月15日

場 所：埼玉県県民活動総合センター(埼玉県伊奈町)

テーマ：経営効率性評価 -DEA法のフロンティアと応用事例

### 3. 特設研究部会（数理計画法研究会）

（主査：茨木俊秀（京都大学） 幹事：田口 東（中央大学）、森戸 晋（早稲田大学）、矢部 博（東京理科大学）、山本芳嗣（筑波大学）、福島雅夫（奈良先端科学技術大学院大学）、石井博昭（大阪大学）、加藤直樹（神戸商科大学）、メンバー：30名）

月例研究会、RAMP セミナー（春 新潟）、RAMP シンポジウム（秋 仙台）等の開催を通じて、数理計画法理論、応用、ソフト開発等に関する研究普及活動を行なう。また、会の運営にあたっては、若手研究者の育成のため、特別な配慮を行なう。

### 4. 研究部会・研究グループ

#### (1) 研究部会

次の18研究部会を設置する。

#### ア. 常設（2研究部会）

「待ち行列」 主査：高橋 幸雄（東京工業大学）  
「OR/MSとシステム・マネジメント」 主査：山田 善禧（東京理科大学）

#### イ. 継続（11研究部会）

「動的計画法」 主査：小田中敏男（北海道情報大学）  
「システムと最適化」 主査：一森 哲男（大阪工業大学）  
「ORソフトウェア」 主査：八巻 直一（システム計画研究所）  
「組合せ最適化」 主査：久保 幹雄（東京商船大学）  
「合意形成・政策」 主査：荻野 正浩（経営・情報コンサルタント）  
「マーケティング・サイエンス」 主査：木島 正明（筑波大学）  
「意思決定とOR」 主査：菊田 健作（富山大学）  
「ファイナンスのOR」 主査：古川 浩一（東京工業大学）  
「評価のOR (DEA)」 主査：刀根 薫（埼玉大学）  
「ORリテラシー」 主査：高井 英造（静岡大学）  
「リエンジニアリング」 主査：梅沢 豊（東京大学）

#### ウ. 新設（5研究部会）

「離散系シミュレーション」 主査：中野 一夫（構造計画研究所）  
「高校生のためのOR」 主査：若山 邦紘（法政大学）  
「最適化モデル分析とその応用」 主査：岩本 誠一（九州大学）

「COMのための生産計画・スケジューリング」 主査：村松 健児（東海大学）

「広域インフラストラクチャー計画に関するOR」 主査：高森 寛（青山学院大学）

#### (2) 研究グループ

次の4研究グループを設置する。（なお、年度途中での発足は2～3研究グループ程度とする。）

#### ア. 継続（3研究グループ）

「日本の経営」 主査：上田亀之助（上田イノベーション研究所）  
「情報ネットワークとその活用」 主査：根本 忠明（和光大学）  
「自動車市場の計量分析」 主査：国沢 清典（東京工業大学）

#### イ. 新設（1研究グループ）

「高度情報化社会における交通・流通」 主査：忍田 和良（日通総合研究所）

### 5. 普及活動、会員増強活動

(1) 研究意欲の増進、最新知識情報の吸収を意図し講演会開催の積極

化を図る。

(2) 学会の役割を内外にアピールするという広報活動の一環として、また事業としての位置づけに配慮しセミナー（講習会）を従来どおり2回開催する。

(3) 賛助会員の増強を図るとともに支部活動の活性化に寄与するため、OR企業サロンを開催する。（本部5回および地方支部共催4回）

(4) 会員増強活動の推進

(5) その他学会活動の広報

### 6. 刊行物

次の刊行物を発行する。

(1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」(12号)

(2) 論文誌「Journal of the Operations Research Society of Japan」(5号)

(3) 研究発表会アブストラクト集(2回)

(4) シンポジウム予稿集(2回)・セミナー テキスト(2回)

(5) APORS'94・Proceedings

(6) 研究部会活動結果の報文集等

(7) 会員名簿

### 7. 日本学術会議および他学協会との連携・協力

(1) 日本学術会議経営工学研究連絡委員会および同会議経営学研究連絡委員会の活動に協力する。

(2) 経営工学関連学会協議会(FMES)に議長および代議員を派遣し、その活動に参画する。(以下略)

### 8. 受託研究活動

学会の公益活動の一環として、官公庁、財団等の公的機関からの委託研究を積極的に受託するように努める。本年度は、(財)日本グローバルインフラストラクチャー研究財団からの受託研究を「広域インフラストラクチャー計画に関するOR」研究部会を窓口を実施を予定している。

### 9. 国際協力・交流

(1) IFORS (International Federation of Operational Research Societies)を通じて、各国のOR学会との交流、協力を図る。

(2) 第3回APORS (Association of Asian-Pacific Operational Research Societies) 国際会議(1994年7月・福岡)を開催した学会として、さらにアジア・太平洋地域のORの発展と加盟学会間の情報交換に積極的に協力する。

(3) IAOR (International Abstracts in Operations Research) の編集、発行に協力し、日本の文献抄録を送付するとともに、IAORの国内頒布に協力する。

(4) APJOR (Asia-Pacific Journal of Operational Research) の編集、発行、頒布に積極的に協力をする。

(5) EJOR (European Journal of Operational Research) の編集、頒布に積極的に協力をする。

(以下略)

### 10. 支部活動

各支部において、研究会、講演会、見学会等を企画し、実施するとともに、会員対策について配慮する。



11. 表彰

文献賞, 実施賞, 普及賞, 事例研究奨励賞 (ソフトウェア部門賞を含む) および学生論文賞の選考・表彰を行なう。

12. その他

財政基盤の安定化に努めるとともに, 事務局のOA化に配慮する。

(第4号議案)

平成7年度収支予算書

収支計算書総括表

平成7年3月1日から平成8年2月29日まで

(単位:円)

1 収入の部				
科 目	合 計	一 般 会 計	特 別 会 計	
			数理計画法研究会	APORS 94 会議
基本財産運用収入	85,000	85,000	0	0
入金会費収入	216,000	216,000	0	0
会費収入	53,542,000	53,542,000	0	0
事業収入	20,694,000	18,444,000	2,250,000	0
その他収入	21,646,568	14,467,000	20,000	7,159,568
当期収入合計	96,183,568	86,754,000	2,270,000	7,159,568
前期繰越収支差額	22,028,956	18,935,070	2,812,274	281,612
収入合計	118,212,524	105,689,070	5,082,274	7,441,180
2 支出の部				
科 目	合 計	一 般 会 計	特 別 会 計	
			数理計画法研究会	APORS 94 会議
管理費	33,125,000	28,320,000	5,000	4,800,000
事業費	64,275,180	58,434,000	3,200,000	2,641,180
当期支出合計	97,400,180	86,754,000	3,205,000	7,441,180
当期収支差額	△ 1,216,612	0	△ 935,000	△ 281,612
次期繰越収支差額	20,812,344	18,935,070	1,877,274	0
支出合計	118,212,524	105,689,070	5,082,274	7,441,180

(以下略)

(第5号議案)

(第6号議案)

平成7年度8年度役員候補者名簿

名誉会員の推薦

会務役職	定数	候補者	備考(非改選役員)
会長	1(0)		村井 勉
副会長	3(2)	平尾 信正 伏見 正則	梅沢 豊
庶務	2(1)	山田 善靖	森清 堯
国際	1(1)	高橋 誠	
研究普及	2(1)	鈴木 久敏	中野 一夫
編集	2(1)	逆瀬川 浩孝	高橋 幸雄
会計	1(0)		勅使河原 可海
無任所	4(1)	木村 俊一	尾崎 俊治 小金澤 章吾
"			若山 邦紘
監事	2(1)	山本 保	亀山 三郎

被推薦者氏名

- 伊理 正夫
- 国澤 清典
- 後藤 正夫
- 三根 久

( ) 内は平成7年度改選数